

秋田産業サポータークラブ

～発足10年の歩みと成果～



「イマの秋田、
これからの秋田について、
みんなで話し合おう」

秋田県「あきた起業促進事業」補助事業
第4回 起業創造塾「あきた寺子屋」

2015年
12月5日（土）
10：30～16：45

秋田を熱く愛しようとしている若者がいます。
そして、これからの秋田をどうしたらいいかを真剣に考
えている若者もいます。
秋田で働く。秋田で暮らす。秋田を楽しむ。『あきた寺



秋田産業サポータークラブ

～発足10年の歩みと成果～

●活動体系

- ☆総会 … 全会員を対象にした全体会議。各種報告や県幹部との意見交換等を行う。(年2回開催)
- ☆幹事会 … 会長、幹事、ワーキンググループ主査、プロジェクトリーダー、県等で各種検討を行う。
(年2回開催)
- ☆ワーキンググループ … 様々なテーマを設けて行う自主的なボランティア活動。メンバーには
会員以外の参加も可能。
- ☆秋田サポートプロジェクト … 県の産業施策に関わりの深いテーマを設けて、会員と県が共同で
課題解決の方策等を検討する。

秋田産業サポータークラブの歩み（2－1）

●平成18年1月、秋田産業サポータークラブが発足

●ワーキンググループ(WG)の発足

年度	WGの発足
平成18年	既存企業振興・新規事業育成WG(略称:企業振興育成WG)が発足 歴史再生・古民家維持・観光育成強化WG(略称:歴史古民家WG)が発足 バイオマス資源の利活用WG(略称:バイオマスWG)が発足（平成20年、WGの目的達成により解散）
平成19年	秋田市中心市街地活性化提言WGが発足（平成20年、パブリックコメントを提出して解散）
平成20年	秋田まるごと地球博物館WG(略称:地球博物館WG)が発足（平成28年、WGの目的達成により解散） 北東北歴史懇話会WG(略称:北東北歴史WG)が発足
平成22年	秋田の地球熱利用・産業振興WG(略称:地球熱利用WG)が発足 秋田杉利用と地域活性化WG(略称:秋田杉利用WG)が発足
平成23年	ITによる秋田の活性化WG(略称:IT-WG)が発足（平成24年、WGの目的達成により解散）
平成27年	夢づくりWGが発足
平成28年	美と食と健康WG(略称:美食健康WG)が発足 地域連携・観光振興WG(略称:地域観光WG)が発足（歴史古民家WGからの改称）

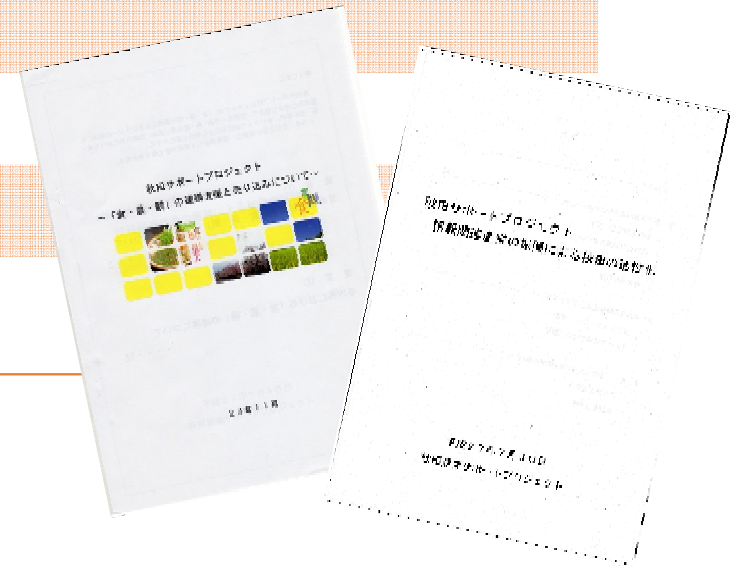
※12のWGが発足し、4WGの解散、1WGの改称により、現在7WGが活動中

秋田産業サポータークラブの歩み（2-2）

●秋田サポートプロジェクトの提言

秋田県産業労働部と秋田産業サポータークラブとの協同プロジェクト

年度	テーマ
平成23年	秋田への企業立地を進めるためには ※ここでの検討が「あきた寺子屋」の開催につながった
平成24年	「食・農・観」の連携支援と売り込みについて
平成27年	情報関連産業の振興による秋田の活性化
平成28年	秋田の活性化に向けた産業人材の確保・育成 ※年度内の提言に向けて協議を実施中



WGの活動と成果 ～WG別（7－1）

●企業振興育成WG

年度	活動と成果	内容
平成18年	WG発足 秋田県内の17企業を訪問し、4社で 県外企業からの受注 （平成18年～平成20年）	Page 14
平成20年	あきた企業活性化センター との意見交換をスタート	Page 14
平成24年	第1回「 あきた寺子屋 」を開催	Page 15
平成25年	第2回「 あきた寺子屋 」を開催	Page 15
平成26年	第3回「 あきた寺子屋 」を開催	Page 15
平成27年	第4回「 あきた寺子屋 」を開催（ 夢づくりWG との共催）	Page 15
平成28年	第5回「 あきた寺子屋 」を開催（ 夢づくりWG との共催）	Page 15

WGの活動と成果 ～WG別 (7-2)

●歴史古民家WG

年度	活動と成果	内容
平成18年	WG発足	
平成19年	増田「蔵の再生」基金を創設(増田「蔵の会」との協同)	Page 16
平成21年	「秋田県登録文化財所有者の会」の設立支援	Page 16
平成25年	『秋田県における登録有形文化財の使用および維持管理の状況』の刊行支援	Page 17
平成27年	『写真と文字で綴る秋田県の登録有形文化財・第1集』の刊行支援	Page 17
平成28年	「地域連携観光振興WG」に改称し、再スタート	

●バイオマスWG

年度	活動と成果	内容
平成18年	WG発足	
平成19年	地域新生コンソーシアム研究開発事業(東北経産局委託事業)受託 木質バイオマス前処理工程の検討と設備の設計及び建設	Page 18
平成20年	地域イノベーション創出研究開発事業(東北経産局委託事業)受託 木質バイオマス前処理工程における革新的リグニン分解技術の実用化前技術を開発 研究開発を終了しWGを解散	Page 18

WGの活動と成果 ～WG別 (7-3)

●地球博物館WG

年度	活動と成果	内容
平成20年	WG発足 秋田県内での活動団体「秋田まるごと地球博物館ネットワーク」を設立	
平成21年	院内銀山金山神社修復行事の支援 子供達の野外体験学習「貝化石を探そう」を実施	Page 19 Page 20
平成22年	湯沢ジオパーク学術調査(市の委託事業)の実施(平成22年～平成26年) 子供の野外体験学習(由利原油田、貝化石、植物化石)を実施	Page 19 Page 20
平成23年	湯沢市で植物化石の採集、大館市で鉱山を学ぶ 湯沢ジオパークの講演や講座へ人材を派遣	
平成24年	湯沢市(旧高松小学校)の「三途川化石資料室」開設を支援し、植物化石、昆虫化石、貝化石を展示 湯沢市等の地下資源・地域資源のパンフレット(A4版)12編を出版、化石のしおり発行	Page 19
平成25年	湯沢市の「湯沢の大地の歴史資料室」開設を支援し、市内に分布する岩石標本を展示 秋田鉱山サミット(鉱山関連施設連絡協議会)を発足	Page 20 Page 20
平成26年	ガイドブック「秋ノ宮の今と昔」(P128)、「歴史を刻む銀山と関所の町院内」(P105)を出版	
平成27年	「ジオパークで遊ぼう」(秋大鉱業博物館・県立博物館主催、アルベ1階)に専門家を派遣	
平成28年	湯沢市「三途川化石資料室」、「湯沢の大地の歴史資料室」の改装を支援 WGの目的達成により発展的に解散(以後の活動は「秋田まるごと地球博物館ネットワーク」で実施	

WGの活動と成果 ～WG別（7－4）

●北東北歴史WG

年度	活動と成果	内容
平成20年	WG発足 北東北遺跡巡りツアーを開催	
平成21年	新緑の秋田文化遺産と秘湯めぐりツアーを開催	
平成22年	縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム「縄文世界とストーンサークル」を開催 北の縄文探訪ツアーを開催	Page 21
平成25年	シンポジウム「出羽の清原氏から平泉の藤原氏へ」を開催	Page 21
平成26年	縄文遺跡群世界遺産推進支援フォーラム「縄文時代研究の最前線」を開催	Page 22
平成27年	こまち学研究所（湯沢市）の設立支援、記念シンポジウムへ参加 十和田噴火1100年記念シンポジウム「火山噴火が変えた日本の歴史」を開催	Page 22 Page 23
平成28年	「元慶の乱」公開研究会in大館シンポⅡ－元慶の乱・十和田噴火の影響－を開催	Page 23

WGの活動と成果 ～WG別 (7-5)

●地球熱利用WG

年度	活動と成果	内容
平成22年	WG発足 秋田県内での活動団体「秋田県地球熱利用・産業振興協議会」を設立(会員45名) 総務省の「緑の分権改革」に応募して採用される(男鹿市・上記協議会との協同、平成22年度～平成23年度)	Page 24
平成23年	上記協議会を母体に「NPO法人あきた地球熱利用事業ネットワーク」を設立し、活動を支援	Page 24
平成25年	「地球熱の利用技術」紹介パンフレットを作成して啓蒙活動	Page 25
平成26年	「地中熱の農業利用・地域再生」を主としたパンフレットを作成して啓蒙活動 「ジオパワーで湯沢の街づくり」シンポジウム(NPO法人主催)に協力	Page 25
平成27年	シンポジウム「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」を開催(芝浦工業大学の公開講座と協同)	Page 25
平成28年	「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」第2回を秋田市で開催(平成29年1月16日、NPO法人との協同開催)	

WGの活動と成果 ～WG別（7－6）

●秋田杉利用WG

年度	活動と成果	内容
平成22年	WG発足	
平成23年	「天然秋田杉ブランド」の再構築を検討	Page 26
平成24年	秋田杉での「置き和室」を検討 天然秋田杉「放置空家現状」の調査、分析および「放置空家有効活用」の事業化を検討（平成24年～平成25年）	Page 26 Page 26
平成26年	「天然秋田杉古材再生」パンフレットを作成	Page 27
平成27年	「天然秋田杉古木認定制度」を検討	Page 27
平成28年	事業化に向けて地元（能代市）作業グループの設置準備	

WGの活動と成果 ～WG別（7-7）

●夢づくりWG

年度	活動と成果	内容
平成27年	WG発足 第4回「あきた寺子屋」を開催（企業振興育成WGとの共催） 秋田県内の若者グループとのつながりを開拓強化	Page 28
平成28年	第5回「あきた寺子屋」を開催（企業振興育成WGとの共催） 秋田の文化・芸術を地域創世に結び付ける活動を開始 わらび座ミュージカル「げんない」などの公演支援 「地域創世文化シンポジウム」（仮題）副題「わらび座が地元秋田の救世主になる日」を平成29年2月27日に開催すべく準備中（東京ニュービジネス協議会との共催）	Page 28

●美食健康WG

年度	活動と成果	内容
平成28年	WG発足 資源活用型地域連携ビジネスの構築に向けた活動を開始	Page 29

●地域観光WG

年度	活動と成果	内容
平成28年	「歴史古民家WG」を改称して発足 大館市「歴史まちづくり」への支援をテーマに活動を開始	Page 29

WGの活動と成果 ～態様別 (3-1)

●イベントの開催

年度	活動と成果	内容
平成20年	北東北歴史WG 北東北遺跡巡りツアーを開催	
平成21年	地球博物館WG 子供達の野外体験学習 北東北歴史WG 新緑の秋田文化遺産と秘湯めぐりツアーを開催	Page 20
平成22年	地球博物館WG 子供達の野外体験学習 北東北歴史WG 縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム「縄文世界とストーンサークル」を開催 北東北歴史WG 北の縄文探訪ツアーを開催	Page 20 Page 21
平成24年	企業振興育成WG 第1回「あきた寺子屋」を開催	Page 15
平成25年	企業振興育成WG 第2回「あきた寺子屋」を開催 北東北歴史WG シンポジウム「出羽の清原氏から平泉の藤原氏へ」を開催	Page 15 Page 21
平成26年	企業振興育成WG 第3回「あきた寺子屋」を開催 北東北歴史WG 縄文遺跡群世界遺産推進支援フォーラム「縄文時代研究の最前線」を開催	Page 15 Page 22
平成27年	企業振興育成WG 第4回「あきた寺子屋」を開催 北東北歴史WG 十和田噴火1100年記念シンポジウム「火山噴火が変えた日本の歴史」を開催 地球熱利用WG シンポジウム「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」を開催	Page 15 Page 23
平成28年	企業振興育成WG 第5回「あきた寺子屋」を開催 北東北歴史WG 「元慶の乱」公開研究会in大館シンポⅡ ー元慶の乱・十和田噴火の影響ーを開催 地球熱利用WG 「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」第2回を秋田市で開催 夢づくりWG 「地域創世文化シンポジウム」(仮題)副題「わらび座が地元秋田の救世主になる日」を平成29年2月27日に開催すべく準備中	Page 15 Page 23 Page 25

WGの活動と成果 ～態様別 (3-2)

●秋田県内での活動主体等の設立

年度	活動と成果	内容
平成19年	歴史古民家WG 増田「蔵の再生」基金を創設(増田「蔵の会」との協同)	Page 16
平成20年	地球博物館WG 「秋田まるごと地球博物館ネットワーク」を設立	
平成21年	歴史古民家WG 「秋田県登録文化財所有者の会」の設立支援	Page 16
平成22年	地球熱利用WG 秋田県内での活動団体「秋田県地球熱利用・産業振興協議会」を設立(会員45名)	
平成23年	地球熱利用WG 上記協議会を母体に「NPO法人あきた地球熱利用事業ネットワーク」を設立	Page 24
平成25年	地球博物館WG 秋田鉱山サミット(鉱山関連施設連絡協議会)を発足	Page 20

WGの活動と成果 ～態様別 (3-3)

●パンフレット等の作成

年度	活動と成果	内容
平成24年	地球博物館WG 湯沢市等の地下資源・地域資源のパンフレット(A4版)12編を出版、化石のしおり発行 地球熱利用WG 「地球熱の利用技術」紹介パンフレットを作成して啓蒙活動	Page 25
平成25年	歴史古民家WG 『秋田県における登録有形文化財の使用および維持管理の状況』の刊行支援 地球熱利用WG 「地中熱の農業利用・地域再生」を主としたパンフレットを作成して啓蒙活動	Page 17 Page 25
平成26年	地球博物館WG ガイドブック「秋ノ宮の今と昔」(P128)、「歴史を刻む銀山と関所の町院内」(P105)を出版 秋田杉利用WG 「天然秋田杉古材再生」パンフレットを作成	Page 27
平成27年	歴史古民家WG 『写真と文字で綴る秋田県の登録有形文化財・第1集』の刊行支援	Page 17

[企業振興育成WG] 秋田県内の17企業を訪問し、4社で県外企業からの受注(平成18年～平成20年)

秋田県内の企業を訪問し、意見交換やアドバイス、県外企業の紹介などを実施。現在も県内外企業との面談や意見交換は継続しているが、特にこの期間は藤盛氏を中心に精力的な訪問を実施。

結果として、20社の企業を紹介し、訪問した17社のなかから4社が受注するという成果につながった。他にも秋田県の企業の強みを活かす組み合わせ、やる気のある若手経営者の掘り起し、三次産業や伝統産業といった企業の紹介など多岐にわたる活動を行う。

また、県内外の新興企業や各種団体の経営者を招いて、新たな産業振興のための意見交換や交流のサポートをする活動も継続して実施している。



[企業振興育成WG] あきた企業活性化センターとの意見交換をスタート(平成20年)

あきた企業活性化センターの「ふるさと応援隊事業」のナビゲーターに、秋田産業サポータークラブの会員から約40名が登録し、首都圏企業に対する受注の可能性のある企業の調査やヒアリングなどの営業活動の支援を行っている。

[企業振興育成WG] 第1回～第5回「あきた寺子屋」を開催(平成24年～平成28年)

既存企業の振興だけではなく、新規企業の立ち上げや産業の育成という観点から、秋田での起業や就労を目指す人たち(特に若い層)を掘り起こす事業として起業創造塾「あきた寺子屋」を開催、本年度(平成28年)で第5回を実施した。

実際の起業をサポートする他のイベントも実施されてきたこともあり、「あきた寺子屋」は起業や就労といったニーズと、秋田への関心をより深めてもらいたいといった目的も併せ持ったイベントとして実施している。

現在は、秋田県「あきた起業促進事業」の補助事業に認定を受けている。



[平成28年 ワークショップ]

**「イマの秋田、
これからの秋田について、
みんなで話し合おう」**

秋田県「あきた起業促進事業」補助事業
第4回 起業創造塾「あきた寺子屋」

2015年
12月5日(土)
10:30～16:45

参加費無料

【参加対象】
秋田での起業・就労に興味のある方
秋田に関わりを持ちたい方
秋田出身の方はもちろん、秋田以外の出身の方も、ご興味のある方は是非ご参加ください。

会場：港区立商工会館
2階研修室

〒105-0022 東京都港区海岸1-4-28
JR山手線、新大塚駅、東武有明線、東武有明線
有明駅2階から徒歩7分
有明駅から徒歩5分

協賛社：秋田銀行
主催：秋田県産業振興センター、秋田県産業育成WG、夢づくりWG
(共催：秋田県産業振興センター、秋田県産業育成WG)
協力：秋田県企業立地推進課

企画方法：下記「オフィシャルサイト」から
定員：10名 ※定員に達しない場合は、定員になり次第開始します。
申込先：
<http://www.kokuchpro.com/event/akitaterakoya4>

[平成27年 ポスター]



[平成27年 講演風景]



[平成28年 集合写真]

[歴史古民家WG] 増田「蔵の再生」基金を創設(平成19年)

WGの活動として、増田町の内蔵(うちぐら)の公開に伴い予想される寄付金や募金の受け皿となる「基金」の創設を働きかけた。

蔵の所有者によって組織された「増田蔵の会」と秋田産業サポータークラブとの協同発起により、「増田『蔵の再生』基金」を創設した。

この「基金」の創設が切っ掛けのひとつとなり、重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)の指定を目指した活動が開始された(平成25年10月、重伝建に指定された)。



[基金のリーフレット]

[歴史古民家WG] 「秋田県登録文化財所有者の会」の設立支援(平成21年)

WGの活動で訪問した「登録有形文化財(建造物)」の所有者から、交流と情報交換の場となる「所有者の会」の設立への協力依頼を受けた。

歴史古民家WGが世話役となり、県の観光課および文化財保護室の協力を得ながら県内の「登録有形文化財」の所有者の方々に働きかけを行い、所有者34名の参加を得て「秋田県登録文化財所有者の会」を設立した。

この会の発足は、関東、大阪、京都に次ぐ全国4番目の「所有者の会」になった。

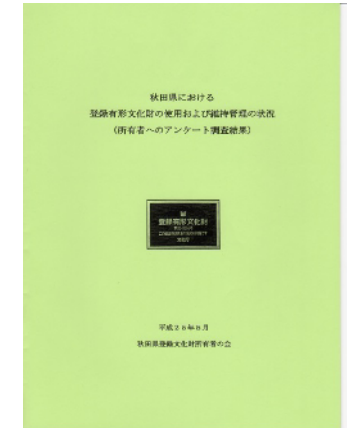


[歴史古民家WG] 『秋田県における登録有形文化財の使用および維持管理の状況』の刊行支援(平成25年)

歴史古民家WGの支援で設立した「秋田県登録文化財所有者の会」への活動支援として、秋田県内の登録有形文化財の現在の利用状況と維持管理の状況などに関する情報を収集・整理するために、全所有者にアンケート調査を実施した。

60%の所有者から回答が得られたため、回答結果の集計・分析を行い、冊子『秋田県における登録有形文化財の使用および維持管理の状況』として刊行した。

冊子は、県内各市町村の文化財担当部局、県文化財保護室および文化庁登録文化財担当にも配布された。



[歴史古民家WG] 『写真と文字で綴る秋田県の登録有形文化財・第1集』の刊行支援(平成27年)

歴史古民家WGの支援で設立した「秋田県登録文化財所有者の会」への活動支援として、会員施設への訪問・取材に同行し、「会報」の作成に協力してきた。

訪問施設が26施設になったことを契機に、「会報」に掲載した記事の再編集を行い、写真文集『写真と文字で綴る秋田県の登録有形文化財・第1集』として刊行した。

魁新報の取材が記事に掲載されたこともあって、学校図書館からの購入の希望など各方面から大きな反響をいただいた。



[バイオマスWG] 木質バイオマス前処理技術の開発(平成18年～平成20年)

●開発された技術

これまでの技術である乾式粉碎に比べ、促進剤を用いた湿式粉碎技術を開発し上記のグラフのように4MJという、画期的なエネルギー量の削減に成功し、秋田県に豊富な 秋田杉や間伐材等の木質バイオマスからのエネルギー生産に目処をつけた。

●成果

この研究開発を契機として、

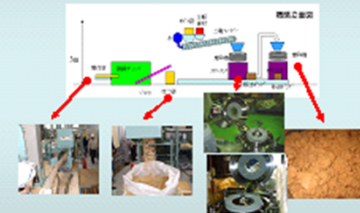
- ①平成20年度森林資源活用型ニュービジネス創造対策事業
「木質バイオエタノール製造システム構築の実証事業」：北秋田市
- ②ソフトセルロース利活用技術確立事業：大潟村

これら2つのバイオエタノールの一貫生産事業が開始され、秋田県の第二世代バイオエタノール事業につなげることができた。

●現在の状況

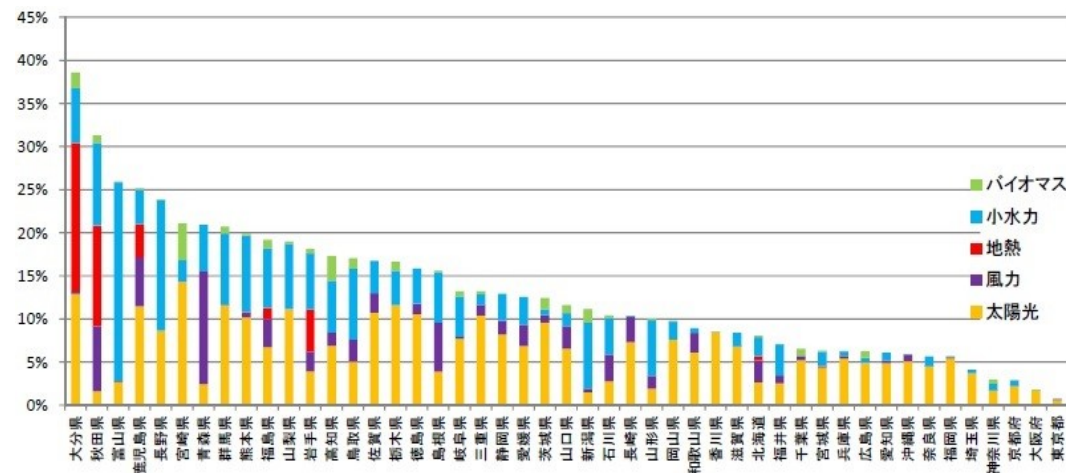
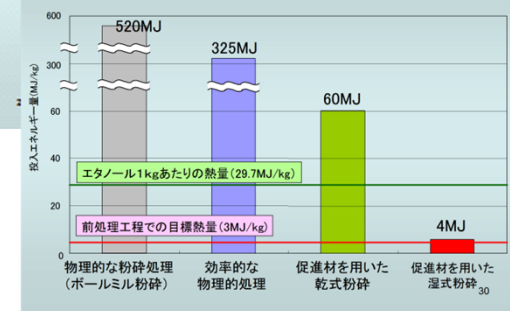
県内発のバイオマスWGで先駆的
事業に取り組んだことで、本県の小
規模バイオマスや分散型エネルギー
への取り組みが活性化され、秋田県
は全国自治体で電力自給率第2位
に至った。

開発した木材の分解の手法



木材酵素糖化前処理のエネルギー比較

※エタノール1kgを得られる木材を処理するのに必要なエネルギー量の試算値



【都道府県別の電力自給率】

※小水力発電は出力1万キロワット
以下、バイオマス発電はバイオマス
比率50%以上が対象。

出典：千葉大学、環境エネルギー
政策研究所

[地球博物館WVG] 院内銀山金山神社修復行事の支援(平成21年)

湯沢市の院内銀山跡にある金山神社修復に伴って地元院内住民は、銀山跡や院内にある関所や羽州街道遺跡を利用して町を活性化したいとの要望があった。

それに基づいて、修復式典に併せた講演会(5月、9月)、展示会(5月、9月)、子供たちの野外体験、雄勝地区の名所巡りなどを実施した。

この事業は後のゆざわジオパーク活動へ引き継がれた。



[平成21年5月12日さきがけ新聞]

[地球博物館WVG] 湯沢ジオパーク学術調査(市の委託事業)の実施(平成22年～平成26年)

湯沢市内にある鉱山跡、噴気・温泉、湧水地、地形、地層の露頭、神社・寺院板碑、景観地、河川、山岳、祭りなど地域にある資源約400点を調査し、報告書を提出した。

パンフレット、案内冊子の出版、掲示板の作成などに活用された。

[地球博物館WVG] 「三途川化石資料室」開設を支援(平成24年)

湯沢市在住の元地学教師押切伸氏が約40年かけて湯沢市三途川から採集した植物化石、昆虫化石や貝化石を展示する資料室を湯沢市の旧高松小学校(廃校)の教室に開設した。

その開設資金は卒業生や地元住民、化石の専門家などから寄付金(約240万円)で賄った。



[地球博物館WG] 「湯沢の大地の歴史資料室」開設を支援(平成25年)

ゆざわジオパーク活動を支援するため、湯沢市内に分布する代表的な地層の岩石標本（花崗岩、変成岩、火山岩、堆積岩）を採集し、時代ごとに岩石標本と解説パネルを展示する資料室を押切伸・三途川化石資料室の隣に開設した。



[地球博物館WG] 秋田鉱山サミット(鉱山関連施設連絡協議会)を発足(平成25年)

秋田県には鉱山関連の資料館や施設があるが、お互いに関係することなく、連携する環境になかった。院内銀山異人館（湯沢市）、大盛館（大仙市、荒川鉱山）、阿仁鉱山資料館（北秋田市）、秋田大学鉱業博物館、史跡尾去沢（鹿角市）、秋田県立博物館（オブザーバー）に呼び掛けて連絡協議会を発足させた。連絡会議は年1回持回りで開催されている。

[地球博物館WG] 子供達の野外体験学習を実施(平成21年～平成24年)

座学や書籍に偏らず、子供たちが野外で実際に体験し、地球科学（鉱山、化石、地熱、油田、水等）を学ぶ郷土学習として教育委員会や地区センターの協力を得て毎年行っている。指導者はそれぞれの専門分野の大学教授や研究機関に依頼した（専門家から本物を学ぶ）。これまでに行った内容は次の通り。貝化石の採集（湯沢市、2回）、植物化石の採集（湯沢市3回、八峰町1回）、鉱山史跡と鉱石探し（川原で砂金取り湯沢市3回、大館市2回）、湧水の性質（湯沢市1回）、地熱（湯沢市2回）、温泉（1回）、油田（1回）



[北東北歴史WG] 縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラムを開催(平成22年)

北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群は、文化遺産として、日本の世界遺産暫定リストに登録されている。しかし、競合する候補も多く、登録申請にはいたっていない。

そこで、その機運を醸成するため、大湯の環状列石及び伊勢堂岱遺跡について、その意義と現状報告をテーマに、「縄文世界とストーンサークル」と題して、東京フォーラムを開催し、約300名の参加があった。

(講師)小林達男氏(國學院大學名誉教授) 富樫泰時氏(元県立博物館館長)
秋田の教育委員会関係者



[北東北歴史WG] シンポジウム「出羽の清原氏から平泉の藤原氏へ」を開催(平成25年)

横手市は「後三年合戦」をテーマとし、世界遺産「平泉」と連携した観光キャンペーンに取り組んでいる。

この取り組みを応援することを目的として、首都圏在住者を対象としたシンポジウムを開催し、藤原三代を築いた藤原(清原)清衡と横手市との関係や後三年合戦について、横手市教育委員会関係者をまじえて考察を行い、約120名の参加があった。



[北東北歴史WG] 縄文遺跡群世界遺産推進支援フォーラムを開催(平成26年)

平成22年のフォーラムに引き続き、世界遺産登録申請支援に向けて、フォーラムを開催し、約100名の参加があった。

あわせて、北秋田市への誘客のため、観光PRを行った。
(講師)谷口康浩氏(國學院大學教授) 秋田の教育委員会関係者



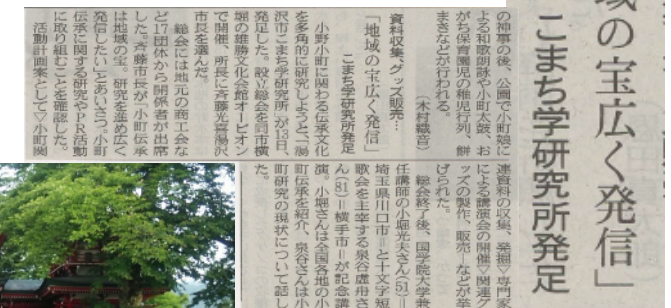
[北東北歴史WG] こまち学研究所(湯沢市)の設立支援(平成27年)

湯沢市及び関係諸団体の参加により、「小町まつり」開催当日に設立。

こまち学とは、「小野小町と小町にまつわることを知る」とことと定義し、文学や民俗学、歴史学、美容学など、幅広い視点で、研究・考察していくことを目的としている。

また小町伝承を観光開発の中核として位置付け、全国的に情報発信を行っていくこととした。

あわせて記念講演会を開催した。
(講師)小堀光夫氏(國學院大) 泉谷虚舟氏(十文字短歌会主宰)



[北東北歴史WG] 十和田噴火1100年記念シンポジウムを開催(平成27年)

過去2000年間で、日本での最大規模の火山噴火であった「十和田噴火」から、1100年になることから、その歴史的な意義を検証し、あわせて三湖物語の民話などを紹介することで、秋田県県北地区の観光促進に寄与するシンポジウムを東京で開催した。

(講師)保立道久氏(東京大学 名誉教授) 大場 司氏(秋田大学教授)



[秋田さきがけ新聞]

[北東北歴史WG] 「元慶の乱」公開研究会in大館シンポⅡを開催(平成28年)

平安時代の北秋蝦夷社会についての研究会。律令政府よりほぼ独立していた米代川流域の蝦夷社会が、元慶の乱(877年)、十和田噴火(915年)を経てどのように変化していったかをテーマに、大館市の歴史愛好家とシンポジウムを開催し、秋田の歴史を再発掘するとともに、相互の交流を図った。

(講師)八木光則氏(岩手大学客員教授) 高橋 学氏(秋田県埋蔵文化財センター副所長)



[地球熱利用WG] 総務省の「緑の分権改革」(男鹿市・上記協議会との協同、平成22年～平成23年)

[平成22年] 温泉排熱を利用した冬季施設栽培の事業化可能性調査

男鹿市の温浴ランド内に施設を造り、温泉排熱(30℃程度)利用ヒートポンプを利用し、浅層水平埋設配管方式での冬季植物栽培の可能性調査を目的に、こまつなや、ホウレンソウ、チュウリップなどを植え付けて成長状態の調査を行った。

[平成23年] 施設を隣接地の男鹿山牧場敷地内に移設、熱供給方式も高温の温泉熱を利用したカスケード方式とし、土耕と水耕栽培(男鹿市市)の双方で事業性の検証をする。また、合わせて男鹿市でそれまでの成果発表と今後の展開・関連技術などのフォーラムを数回開催(NPO主催)。しかし平成24年(?)のゲリラ豪雨で施設が被害を受けて継続が不能になってしまった。



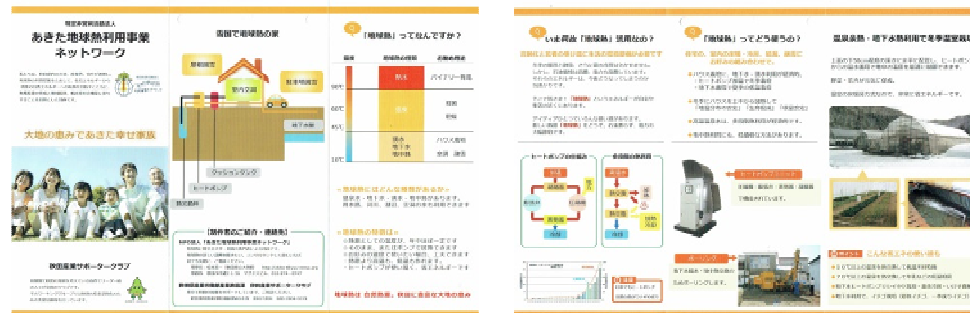
[地球熱利用WG] 「NPO法人あきた地球熱利用事業ネットワーク」を設立し、活動を支援(平成23年)

先に任意団体「秋田県地球熱利用・産業振興協議会」を設立して秋田での活動を開始していたが、任意団体では実ビジネス活動に制約が有るため、これを母体にNPO法人化し、このNPOに秋田の地球熱利用・産業振興ワーキンググループから6名のメンバーが参加した。

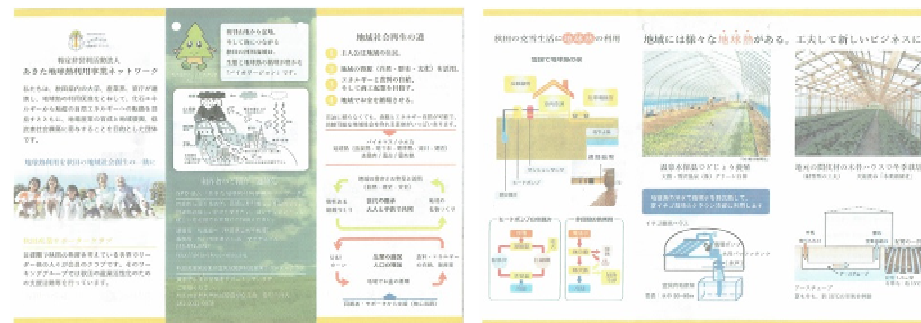
設立したNPO法人で、男鹿市と「緑の分権改革」活動の契約を交わし、上記の活動並びに各地での関連フォーラムなどを開催し、地球熱利用の啓蒙活動を展開。

[地球熱利用WG] 「地球熱の利用技術」紹介パンフレットを作成して啓蒙活動(平成25年・平成26年)

[平成25年]地球熱利用技術の紹介パンフレットを作成



[平成26年] 地球熱の農業利用パンフレットを作成



[地球熱利用WG] シンポジウム「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」を開催(平成27年)

芝浦工業大学では、色々な分野の公開講座やセミナーを各キャンパスで行っている。

その中で芝浦キャンパスで12月に実施したシンポジウム、「再生可能エネルギーの最前線～太陽と地球の恵み～」との共同開催の形で、当ワーキンググループも「太陽と地球のエネルギープラットフォーム」と銘打ったシンポジウムを開催した。



[秋田杉利用WG] 「天然秋田杉ブランド」の再構築を検討(平成23年)

ブランドとしての秋田杉は「天然杉」のイメージが定着しているが天然秋田杉がほとんど生産されていない現状において、秋田杉ブランドの再構築が必要であるとの見解を基本にWGを進めることになった。

[秋田杉利用WG] 秋田杉での「置き和室」を検討(平成24年)

新しい秋田杉ブランドとして、秋田杉の品質の良さと伝統的木工技術を生かし中国のみならず、米国やヨーロッパへ「置き和室」の輸出についての議論を行った。

現在は和歌山県林業組合が積極的に展開している。秋田杉でのモデル置き和室を検討することとなった。



[秋田杉利用WG] 天然秋田杉「放置空家現状」の調査、分析および「放置空家有効活用」の事業化を検討(平成24年～平成25年)

全国的に放置空家が問題になっている中、秋田県も放置空家対策が大きな課題となっている。平成25年10月15日に県北部阿仁町の空家の調査を行った。その結果

1. 調査を行った2件の古家はほとんどの木材が天然杉であり、また建具類にも大変高度な木工技術が残っていることが確認できた。
 2. 現在の空家はそれ以前の住宅(江戸末期から明治期)の再利用で造られていることが多い
 3. 上小阿仁村の3物件の調査で古材ではあるが天然杉が多く残っていることが確認できた。
 4. 一方、これまで解体され焼却された古材はかなり天然杉があったと思われることも判明した。
- WGとして天然秋田杉が残されている空家の有効活用を活動の主体として進めることとした。



[秋田杉利用WG] 「天然秋田杉古材再生」パンフレットを作成(平成26年)

これまでの成果をまとめるとともに、天然秋田杉空家の古材有効利用の考え方を社会に広く発信するためにパンフレットを製作した。

また、具体的な事業化に向けての社会的なニーズの確認と調査・活動費調達のためトヨタ財団及び三井環境財団の助成金に応募した。



[秋田杉利用WG] 「天然秋田杉古木認定制度」を検討(平成27年)

解体予定の空家の木材を家具建具に利活用するためには天然秋田杉古材であることを確認する必要がある。このためWGとして認定制度の議論を行った。全国各地には新材の認定制度はあるが、古材の認定制度は例がなく、以下のような課題について議論を行い認定制度の報告書にまとめた。

- i. 認定は木材にするのか、事業者(解体業者、加工業者、販売者)
- ii. 認定の時期・状況について、解体前と解体後のメリット、デメリットについて
- iii. 認定方法、認定者

[夢づくりWG] 秋田県内の若者グループとのつながりを開拓強化（平成27年）

- ・「地域力フォーラムin あきた」への協賛、参加（前年から3回連続）
- ・五城目のシェアヴィレッジとの会談
- ・五城目、横手でのドチャベンアクセラレータプロジェクトへの協力（メンター、審査員など）
- ・わらび座での秋田若者経営者（秋田9人の侍）のプレゼン及び懇談



[わらび座に集まった、秋田若手経営者「9人の侍」とサポーターメンバー]

[ゆめづくりWG] 秋田の文化・芸術を地域創世に結び付ける活動を開始（平成28年）

夢づくりWGは、わらび座を中心とした、秋田の文化・芸術をいかに地域創世に結び付けていくか？に焦点を絞り、今後の活動とすることを確認。

「小野小町」「げんない」などミュージカル公演の広報、チケット販売などの支援。

「げんない」の際は、サポータークラブ経由で200枚ものチケット販売に成功。とりわけ、東京をはじめ関東地区の経営者、組織へのわらび座の売り込み、及び、新しい顧客層である若者の呼び込みに注力した。

この結果、来年は下町墨田区と共同して、葛飾北斎をテーマとしたミュージカルを製作し、上演するというプロジェクトが生まれており、まったく新しい展開を生んでいる。



[美食健康WG] 資源活用型地域連携ビジネスの構築に向けた活動を開始(平成28年)

「ヒナイグリーン」(大館市比内町)を伝統野菜の「小様キュウリ」(北秋田市阿仁)に施用して栽培し、秋田芸術村宿泊温泉施設「ゆぽぽ」(仙北市田沢湖)の食材として利用する資源活用型地域連携ビジネスを構築する。



[地域観光G] 大館市「歴史まちづくり」への支援をテーマに活動を開始(平成28年)

第1回会議を開催し、大館市「歴史まちづくり」への支援をテーマに活動を開始することになった。

「歴史まちづくり」では、“物語化によって資産の魅力を高める”ことがポイントのひとつになるため、「大館地域の古代から近代までの歴史を多方面から研究する」ことを当WGの活動の出発点にすることとし、①北秋地域の歴史全般および北東北交通の要所、②北東北の物流・経済の観点からの大館、③洋・河川・街道の観点からの大館、④大館の動植物・食料の4つの視点からの研究を開始した。

